

平成 21 年度 岡山県在住外国人生活状況調査結果概要

1 アンケート回答者の基本属性について

- ①性別は女性、年代は 20 代～30 代が多い。
- ②国籍は、6 割程度が中国籍となっている。【図 1】
- ③在留資格は、研修が最も多い。日本人・永住者等の配偶者、永住者が続いている。【図 2】
- ④岡山の居住期間は、3 年未満が 5 割を超えている。
- ⑤市町村は、岡山市と倉敷市で 6 割を超えている。
- ⑥岡山へ定住する意向が 3 割を超えているが、母国に帰る意向の人も 3 割程度いる。

図 1 : 国籍 (N=500)

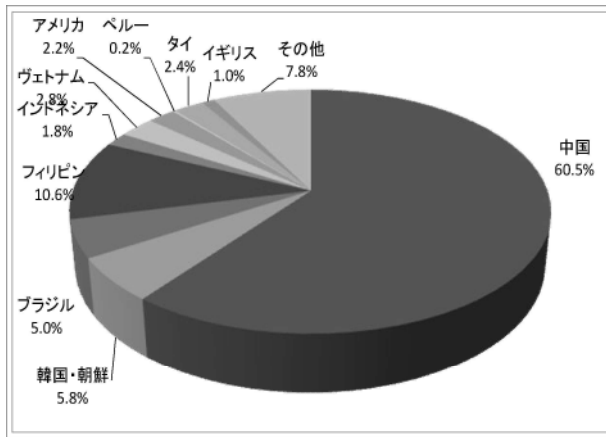
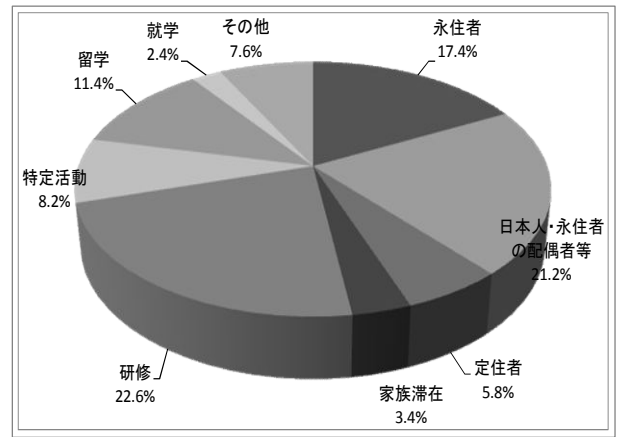


図 2 : 在留資格 (N=500)



2 日本語能力について

- ①3～4 割程度の人が、日本語能力の不足を感じている。【図 3～図 6】
- ②「話す」、「聞く」に比べ「読む」、「書く」ことが難しく感じている。【図 3～図 6】

図 3 : 話す (N=501)

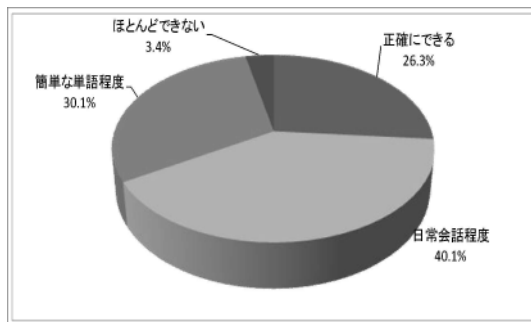


図 4 : 聞く (N=500)

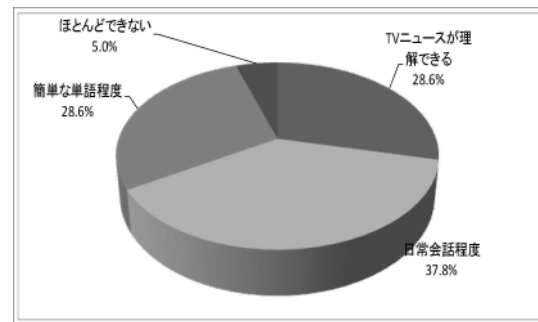


図 5 : 読む (N=494)

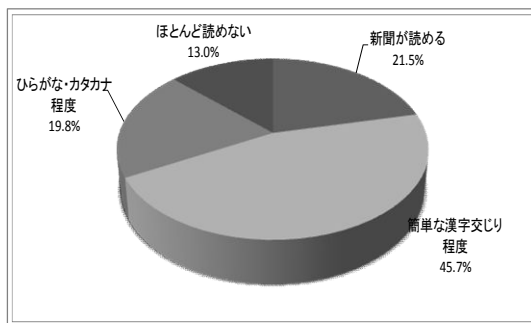
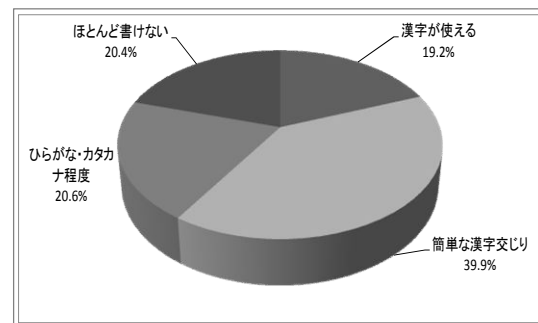


図 6 : 書く (N=496)



③日本語を「勉強中」、「今後勉強したい」人が、8割を超えている。【図7】

④日本語は、独学で勉強している人が6割超で、日本語教室や日本語学校で勉強している人は2割未満となっている。【図8】

図7：日本語の勉強 (N=484)

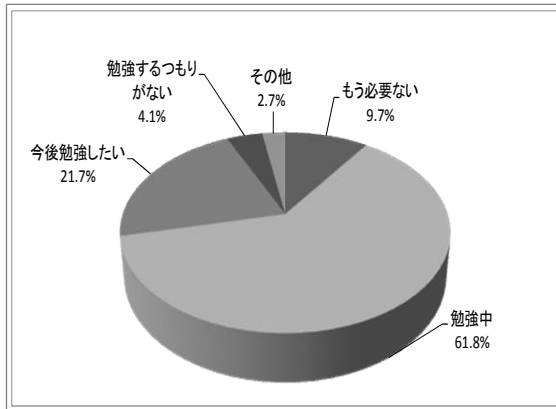
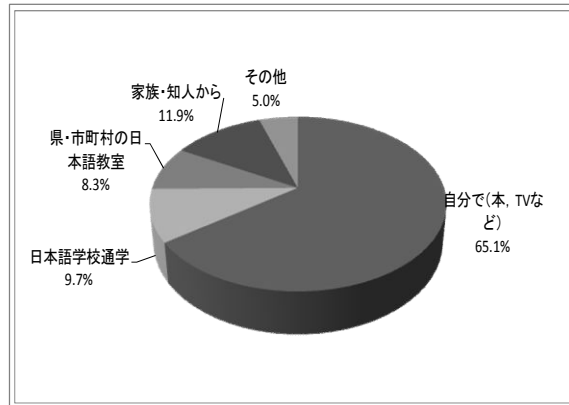


図8：勉強方法 (N=278)



3 雇用状況について

①一年前と比べた収入と仕事量の比較は、増加傾向が約2割、あまり変わらないが約3割、減少傾向及びなくなったが約3割となっている。【図9、図10】

図9：一年前と比べた収入 (N=477)

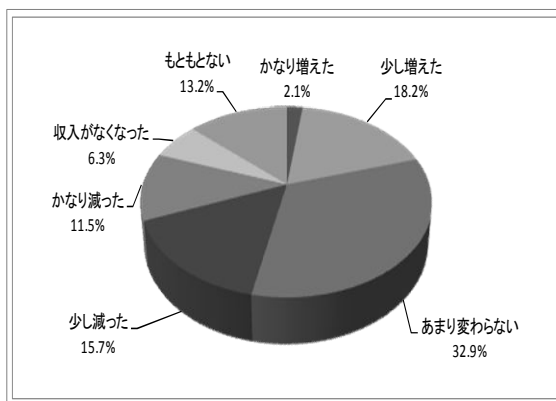
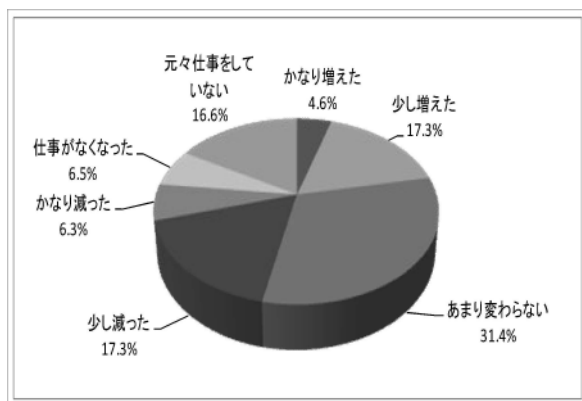


図10：一年前と比べた仕事量 (N=475)



②業種では、「製造業」が4割を超え最大となっており、次に「教育・学習支援業」が約1割で続いている。【図11】

③働き方では、「研修生・技能実習生」が4割を超えており、次に「アルバイト・パート」が約2割となっている。「正社員」も約15%と続いている。【図12】

図11：業種 (N=307)

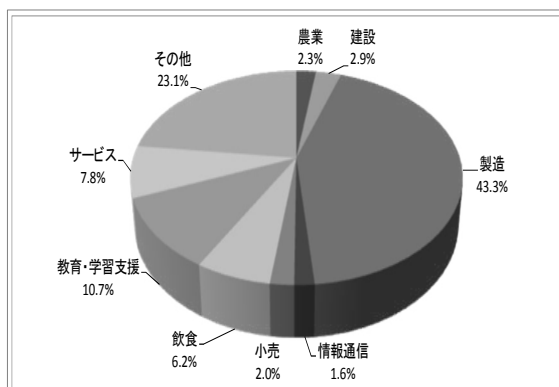
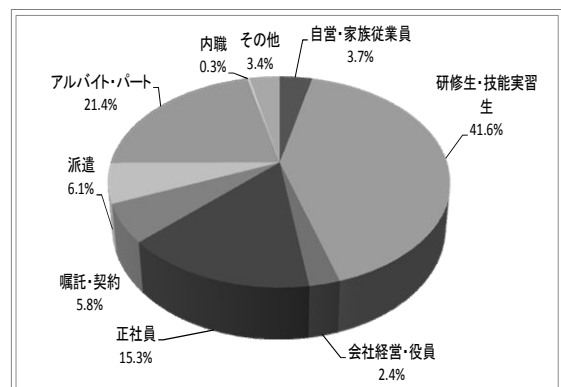
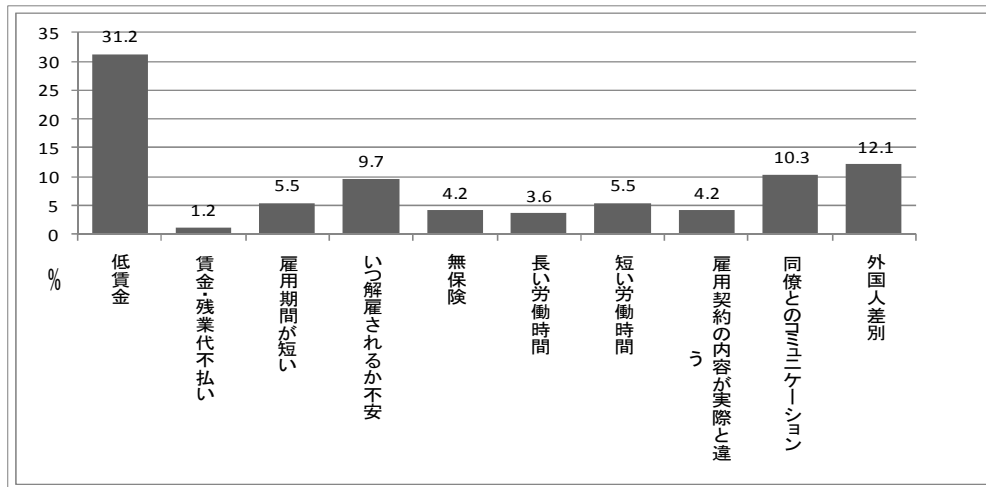


図12：働き方 (N=327)



④仕事の不満は、「低賃金」を回答した者が3割を超えており、次に「外国人差別」、「同僚とのコミュニケーション」、「いつ解雇されるか不安」が1割前後で続いている。【図13】

図13：仕事の不満(N=330)

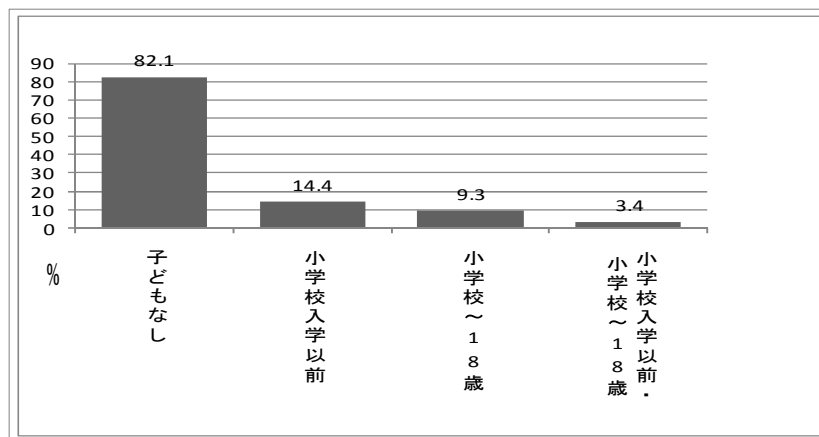


4 子育て・教育について

①回答者に若い世代や研修生が多いことから、子どものいない世帯が8割を超えている。

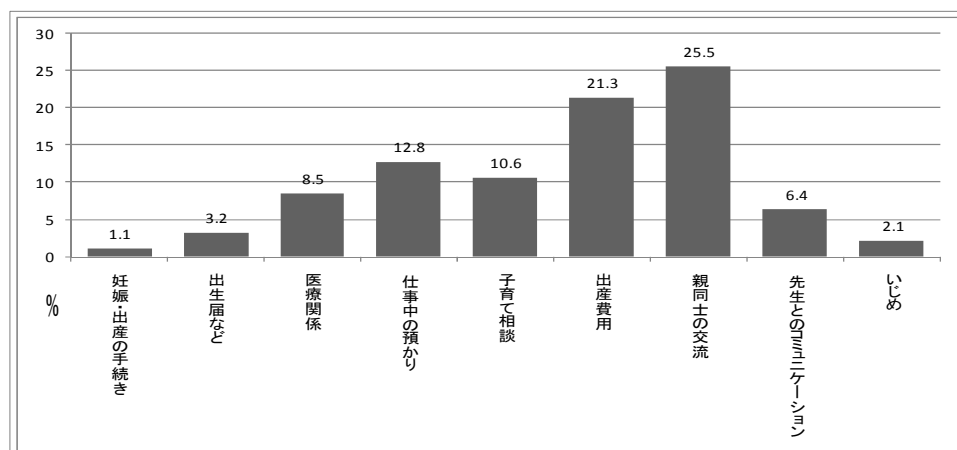
【図14】

図14：子どもはいますか(N=430)



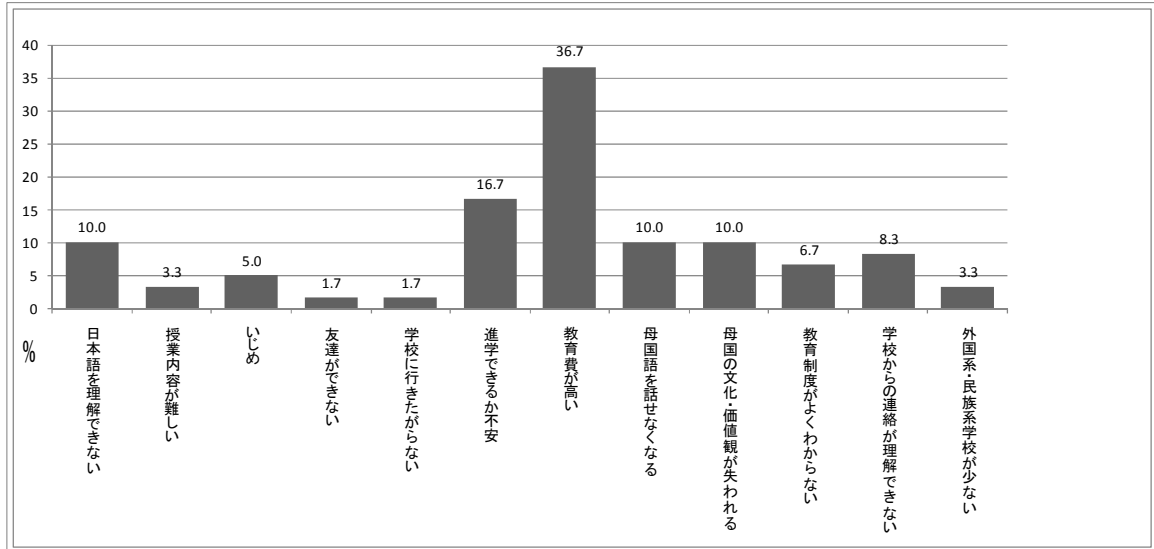
②子育てで困っていることは、「親同士の交流がない」の回答が最も多く25%を超え、次いで「出産費用」が2割を超えている。【図15】

図15：子育ての困りごと(N=94)



③教育で心配していることは、「教育費の高さ」の回答が最も多く 36%を超え突出している。次いで「進学不安」が 16.7%、「日本語の理解不足」、「母国語」や「母国の文化等」の喪失懸念が各 10%となっている。【図 16】

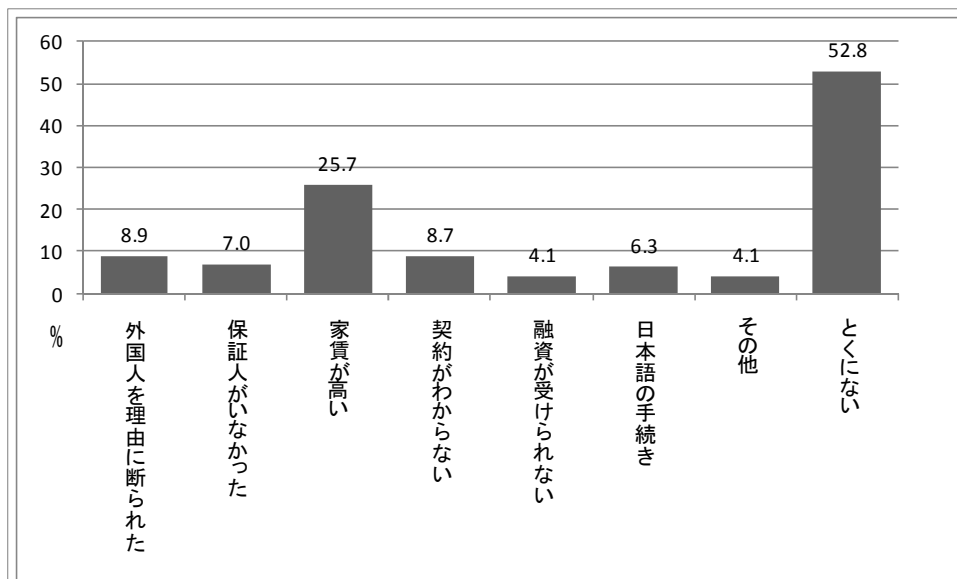
図 16 : 教育の心配ごと (N=60)



5 住宅について

- ①居住している住宅は、「民間賃貸」が最多で、「公営賃貸」と合わせて 45.7%となっている。また、「社宅」が 27.1%、「持ち家」も 20.8%となっている。
- ②住宅で困ったことは、「家賃が高い」が 25.7%と高くなっているが、「とくにない」が 52.8%と最も多くなっている。【図 17】
- ③聞き取り調査では、「外国人を理由に断られた」や「保証人がいない」などの問題が指摘された。

図 17 : 住宅の困りごと (N=459)



6 医療や保険について

①保険・年金への加入は市町村や職場において、それぞれ4割を超えており、民間の保険・年金への加入も1割超あり、未加入は僅かとなっている。【図18】

②聞き取り調査では、保険・年金制度が十分周知されていない、また、国籍によっては加入率が低いなどの指摘があった。

③自分や家族が病気の際は、ほとんど病院・診療所で治療を受けている。【図19】

図18：保険・年金の加入状況(N=480)

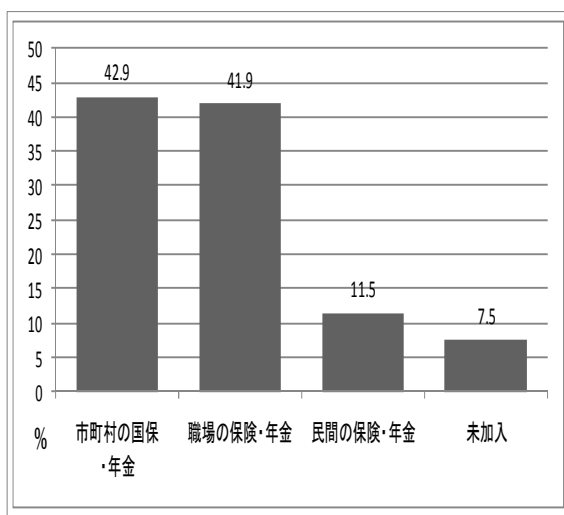
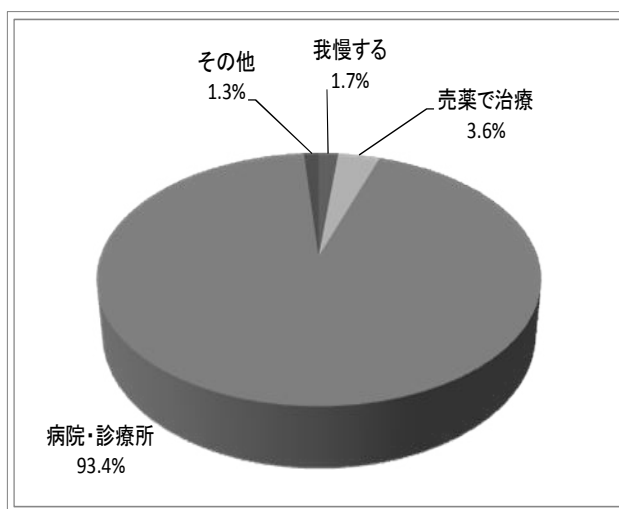


図19：病気やけがのときの対応(N=470)



7 防災について

①災害時の情報入手先は、「テレビ」(83.9%)が圧倒的に多く、次いで「インターネット」(27.4%)、「職場・学校」(20.5%)、「友人・知人」(19.9%)が続いている。【図20】

②災害に関して知っておきたいことは、「避難場所・経路」(63.4%)、「緊急時の問い合わせ先」(48.2%)となっている。【図21】

図20：災害時の情報入手先(N=492)

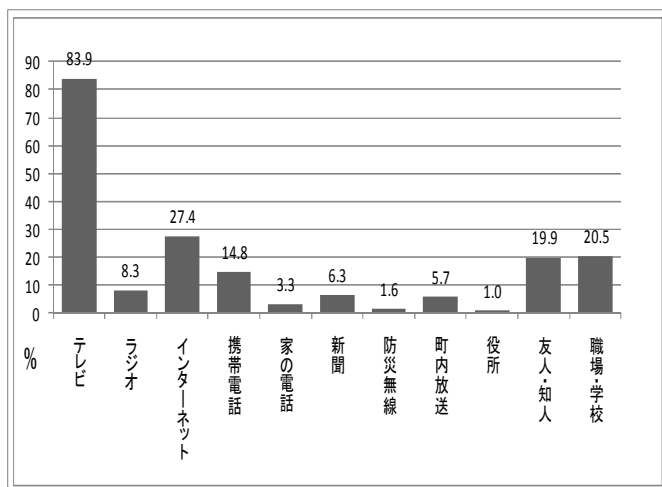
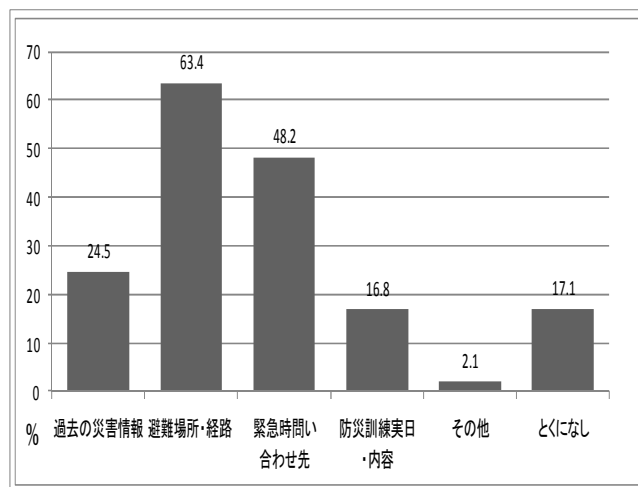


図21：知りたい災害情報(N=481)

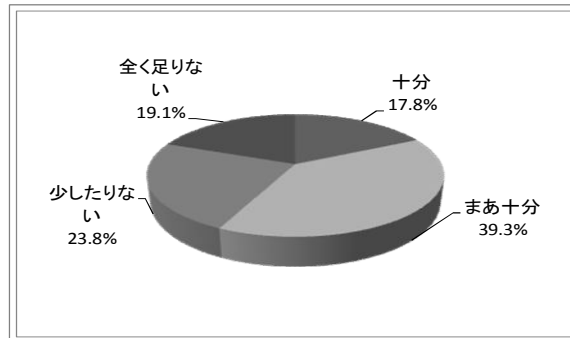


8 生活情報について

①行政や外国人交流支援団体(国際交流協会や社会福祉協議会等)からの多言語情報は、6割近くが満足している。一方、全く足りないと感じている人も2割近くいる。【図22】

②聞き取り調査では、せつかくの情報が届いていないなどの意見があった。

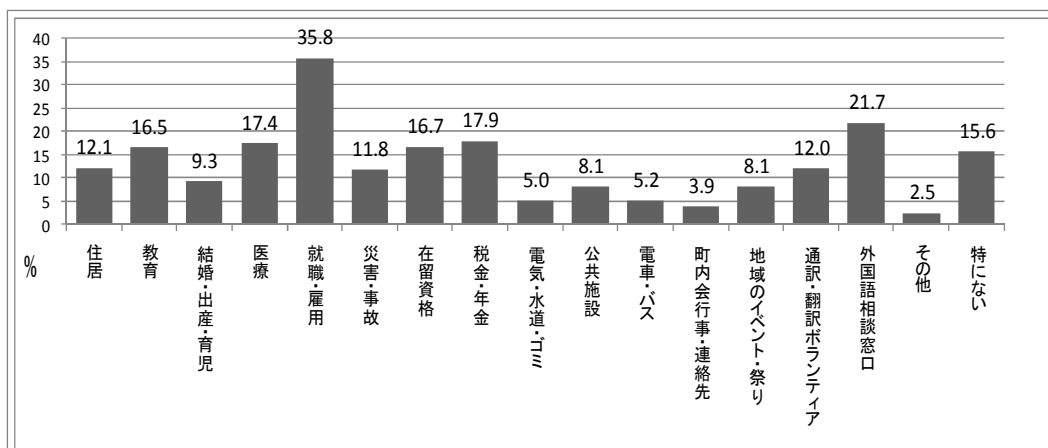
図22：行政等からの多言語情報(N=445)



③欲しい情報は、「就職・雇用」が最も高く、「外国語での相談窓口」が続く。【図23】

④「税金・年金」、「医療」、「教育」、「在留資格」など生活に密着した情報の要望が高い。【図23】

図23：欲しい情報(N=442)

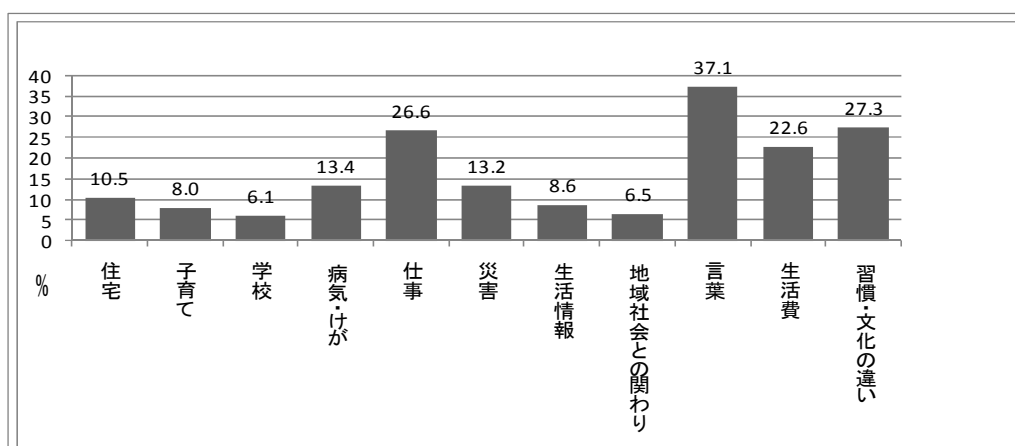


9 困りごとや相談について

①一番の困りごとは、「言葉」で、次いで「習慣文化の違い」、「仕事」となっている。【図24】

②聞き取り調査において、DVや高齢化の問題も指摘された。

図24：普段の生活での困りごと(N=477)



10 地域社会との関わりについて

①地域で参加しているのは「お祭り・イベント」が3割超と多いが、「とくにない」が5割を超えている。【図 25】

②普段付き合っている人は「同国出身」が一番多く、次いで「日本人」、「日本人と外国人が同じくらい」が続いている。【図 26】

図 25：地域で参加している活動(N=477)

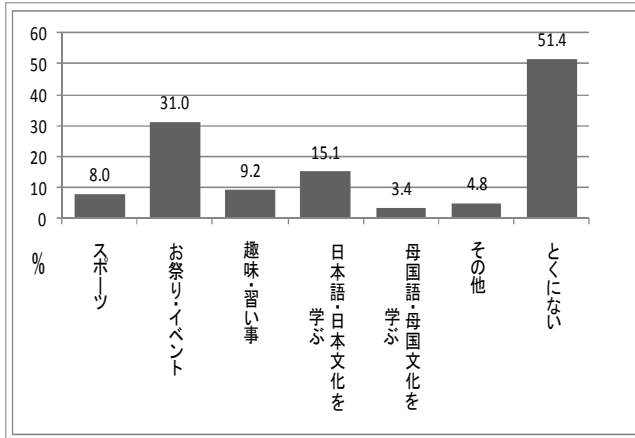
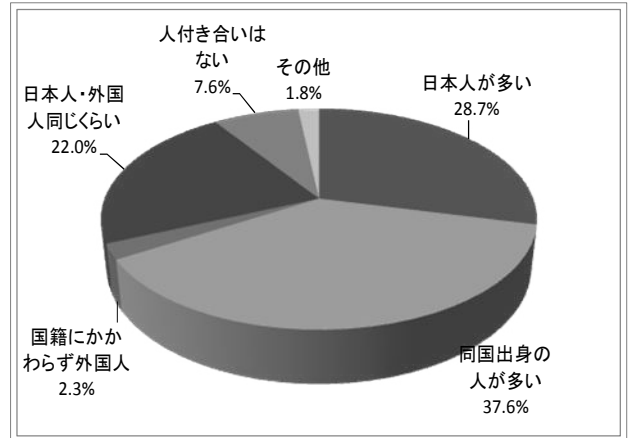


図 26：普段付き合っている人(N=487)

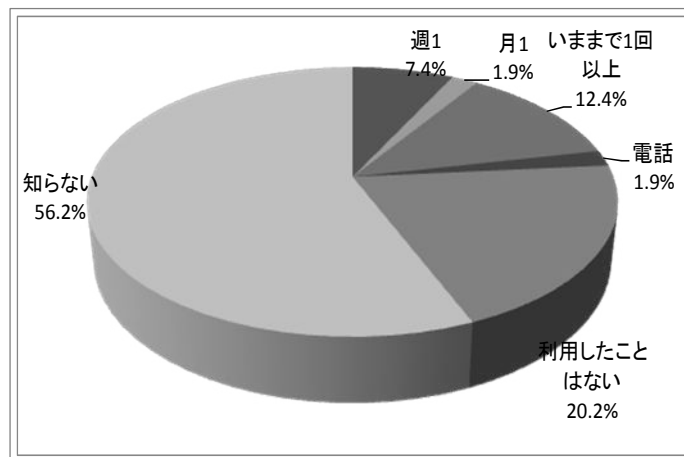


11 外国人交流支援団体のサービスについて

①外国人支援団体が実施している日本語教室や各種相談業務等のサービスを知らない人が5割を超え、「利用したことはない」を合わせると8割近くになり、利用頻度は高くない。

【図 27】

図 27：支援団体の相談等サービス利用(N=475)



※図の見方

- ①集計は、一つの回答を求めたものは、円グラフで、複数の回答を求めたものは、棒グラフで示している。
- ②円グラフ及び棒グラフにおいて、その設問の回答者数を (N=) で示している。
- ③複数の回答を求めた質問では、その設問の回答者数を基数としているため、回答比率が 100%を超えることがある。また、回答比率の低いものは、グラフにおいて項目及び数値を省略していることがある。